

## 論文要旨

**研究背景：**慢性便秘の子どもに関する診療ガイドラインが 2013 年に国内で作成されたが、子どもの排便習慣の獲得に着目し、その看護支援について検討した先行研究は国内にはほとんどなく、子どもの発達にも関わる排便習慣の獲得を支援する看護の枠組みを見出すことが必要とされている。

**研究目的：**慢性便秘を持つ子どものこれまでの排便習慣に影響を与えている背景要因および、慢性便秘を持つ子どもが健康的に排便習慣を獲得していくプロセスとその強化因子を明らかにすることを目的とする。

**研究方法：**研究者が小児看護学上級実践コースの実習にて慢性便秘の子どもと家族を受け持ち、看護援助を行い、それらを詳細に実習記録およびフィールドノートに記載した。それら実習記録とフィールドノートを対象として看護過程を帰納的に分析を行った、質的記述的事例研究である。対象となった事例は幼児期 6 組と学齢前期 2 組の計 8 組である。

**結果：**幼児期の慢性便秘を持つ子どもが排便習慣を獲得していくプロセスは、【排便習慣を獲得する準備が整う】【適切な排便行動を繰り返しながら学習する】【それぞれの子どもなりの排便習慣の獲得段階に至る】であり、その強化因子は子どものレディネスを整えることと、子どもが排便習慣を学習できる環境が提供されることであった。母親がこれらの強化因子を支援することがそのプロセスを促進した。母親を empower した要素は『成長している子どもとして子どもを受け止める』『子どもを支援するために必要な知識を得る』『パートナーシップを築ける支援者の存在』であった。幼児期より排便の問題を抱えていた学齢前期子どもが排便習慣に主体的に取り組んでいくプロセスは、【抑圧してきた排便の問題に挑戦する意欲を持つ】【挑戦しようとしたことに実際に取り組む】【排便を自らの体のこととして受け入れ、コントロールする】であった。学齢前期は、子ども自身が排便行動に取り組む意欲を持ち、対処能力を高めていくことで、排便習慣を獲得するプロセスが進んだ。

**結論：**幼児期の慢性便秘を持つ子どもの排便習慣の獲得を支援するための看護の枠組みとして、子どもが排便習慣を獲得していくための母子のレディネスを整えるためのアセスメント、母子の相互作用を高めるために母親を empower するためのパートナーシップの構築と知識提供、子どもの社会生活の支援者と母親・子どもそれぞれの相互作用を高めるコーディネートメントの 3 つの側面が示唆された。